

池田市 小中一貫教育通信 No.63

令和4年 1月5日 発行・池田市教育委員会

小中一貫教育チーフコーディネーターによる小学校(義務教育学校前期課程)での授業

今年度の小中一貫教育では『学習面』に焦点を当て、各学園でチーフコーディネーターによる小学校(義務教育学校前期課程)での授業実践に取り組んでいます。今回は、いしばし学園(理科)といけだ学園(算数)の授業実践の様子を紹介します。



「礫」は「つぶて」
と読みます!

いしばし学園(末永先生 理科)

6年生「土地のつくりと変化」の学習で、メインは粒の大きさの違うものを流水によって流し、堆積する様子を観察する実験でした。「礫(れき)岩の礫って訓読みで何て読むと思う？」など、専門的な豆知識などを挟みながら子どもの興味を惹きつけていました。

いけだ学園(石井先生 算数)

6年生を対象に、立体図形の切り口に関する授業でした。1問1答で進んでいく中で、切り口を考える際のポイントをしっかりと抑え、最後には多くの子どもが切り口を予想することができました。途中、石井先生の愛犬の写真が出てくるなど、終始穏やかな雰囲気の中で、授業が行われていました。



中3の内容やで!

2つの授業の共通点は、『子どもたちの興味をどのように惹きつけようか。』ということに先生方の意識が向いている点です。その中には、子どもたちが主体的に学習に向かうためのヒントがあったのではないかと思います。それは、専門的な知識や先の学習内容を提示して子どもたちの「知的好奇心」を刺激するということです。授業によって新しい知識を得たり、知らなかった世界を知ったりすることは、子どもたちの知的好奇心を満たし、さらなる学習意欲につながっていきます。授業計画の際に、授業の場にいる誰もが知らないような内容を織り込んでみるのも、子どもたちの興味を惹きつける一つの手立てとなるのではないかと感じました。

教育政策課 越智